

大豆圃場を占有する雑草

カロライナツユクサ

福岡県農林業総合試験場豊前分場
石丸 知道

Commelina caroliniana Walter ツユクサ科ツユクサ属

2010年大分県中津市で発生していたシマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f. らしき種を詳細に調査した結果、シマツユクサとは別種で国内未記録のカロライナツユクサ *Commelina caroliniana* Walter であることが確認された(中村 2012)。その後、本種は、西日本を中心に発生が確認されている(中村 2012; 小川 2013; 日原・橋越 2015; 一部未発表)。水田の畦畔や用水路の脇等で繁殖した本種は、大豆圃場に侵入し連作圃場を中心に発生域を拡大する。多発圃場では収穫を放棄した事例も見られ、防除法の確立が求められている(石丸 2014)。

■分布

原産地はアジア(インド、ネパール、バングラディシュ)。日本では、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、香川、愛媛、高知、徳島、岡山、愛知、静岡、神奈川の各県で確認されている。本種はシマツユクサと酷似しており、従来はシマツユクサと報告されていた中に本種が区別されず混同されたままの状況であることが考えられ(中村 2012)、分布域はさらに広がる可能性がある。

■カロライナツユクサとシマツユクサの見分けるポイント

カロライナツユクサとシマツユクサを見分ける最も分かりやすいポイントは、種子である。カロライナツユクサの種子は濃い茶褐色で平滑であるが、シマツユクサの種子は茶褐色で網目模様をしている(写真-2)。

■カロライナツユクサの生態と茎葉処理剤の除草効果

本種は、土壌深度が0~15cmで出芽するが20cmでは出芽しない。葉齢に関わらず2日に1枚出葉し、主茎の葉の抽出と分げつの抽出には規則的関係がある。節ごとに根を下ろし、繁殖する。

本種への茎葉処理剤の除草効果は、ベンタゾン液剤とジクワット・パラコート液剤では、3葉以下では残草率が0%



写真-1 大豆圃場で繁茂するカロライナツユクサ



写真-2 カロライナツユクサ(左)とシマツユクサ(右)の種子(写真提供 中村功氏)

で、3.1~5葉期でも30%以下の残草率である。グルホシネート液剤は3葉以下では残草率が33%で、3.1葉以上では70%程度となり、グルホシネートPナトリウム塩液剤はいずれの葉齢でも残草率が50%以上である。グリホサートカリウム塩液剤はいずれの葉齢も枯死させることができない(石丸 2016)。

これらのことから、本種の茎葉処理剤による防除は、葉齢が3葉以下の時に、ベンタゾン液剤あるいはジクワット・パラコート液剤を散布すると効果が高い。

参考文献

- 石丸知道 2014. 福岡県北部における大豆雑草の発生状況と防除の実態. 九州の雑草 44. 3-5.
- 石丸知道 2016. 大豆雑草カロライナツユクサの生態と茎葉処理剤の効果. 九州の雑草 46. (投稿中)
- 勝山輝男 2013. ツユクサ属の外来種. FLORA KANAGAWA 75.896-900.
- 小川誠 2013. 徳島県産の新帰化植物カロライナツユクサ. 徳島県立博物館研究報告 23. 123-125.
- 日原由紀子・橋越清一 2015. 宇和島市津島町発見されたカロライナツユクサ *Commelina caroliniana* Walter. 愛媛植物研究会誌 46. 34-36.
- 中村功 2012. 日本未記録種 *Commelina caroliniana* Walter カロライナツユクサ(新和名)の報告. わたしたちの自然史 120. 11-15.